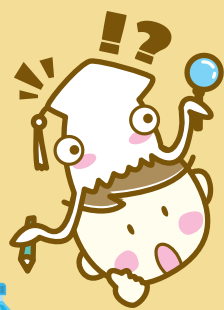


「フードドライブ」を知っていますか？ 家や会社の中で余っている食べ物などを集め、生活に困っている人らに届ける取り組みです。高知県内では10、11月の2カ月間、「フードドライブキャンペーン」を実施中。活動を進めている人たちに、その仕組みを教えてくださいました。（松田さやか）



どんな仕組み？ フードドライブ



① 寄付を集める



ほ集している食品は、賞味期限が1カ月以上ある▷未使用▷常温保存ができる一かんづめ、レトルト食品、調味料、おかし、飲み物など。開ふう済みや、入れ物がこわれている商品は対象外です。寄付したい人は、高知県内各地の「社会福祉協議会」などに設置されている専用の箱に、持ってきた食品を入れます。

寄付は1個でも気軽にできます。こちらは高知県社会福祉協議会が寄付を集めている箱です（高知市朝倉戊の高知県立ふくし交流プラザ1階）

② 保管する



寄付された食品は、各地の保管場所に集められます。社会福祉協議会とともにフードドライブに取り組むNPO法人「こうち食支えんネット」の倉庫を見せてもらおうと、たくさんの食品が種類や賞味期限ごとに並べられていました。奥に、コメなどを保管する冷蔵庫もあります。

寄付はいつでもできる！

高知県内一せいのフードドライブキャンペーンは2015年に始まり、協力してくれる人の輪が少しずつ拡大。昨年は高知県内の社会福祉協議会全体で、コメ3880キロとレトルト食品やかんづめなどの食品5910個が集まりました。

キャンペーンは2カ月限定ですが、フードドライブ自体は一年中行われています。高知県内の社会福祉協議会、NPO法人「こうち食支えんネット」のほか、高知でいち早く活動を始めた「フードバンク高知」でも寄付を受け付けています。また、フジグラン、フジ、マルナカ、コンビニエンスストア「ファミリーマート」の一部店舗などにも専用の箱が設置されています。

③ 必要な人にわたす



高れいや病気のため働けずお金がない、食べるものが足りない…。さまざまな困りごとをかかえる人たちに、寄付食品が届けられます。子ども食堂や高れい者支えん団体などの活動にも役立てられています。子ども食堂を開いている女性は「野菜などの食品が値上がりしているの、とても助かっています」と感謝していました。



食品ロス考える きっかけに



高知県社会福祉協議会
まつもと りえ
松本理恵さん

「日本の家庭や会社では、食べられるのに捨てられる食品がたくさんあると言われています。寄付を通して、食品ロスを考えるきっかけにもしてほしいです」



NPO 法人
「こうち食支えんネット」
かわぐち りんこ
川口玲子さん

家の買い置き 確認してみて

「ぜひお父さん、お母さんらといっしょに、自分の家の買い置きなどを確認してみてください。安売りのとき多めに買ったけど使い切れないな、という食品があるかもしれません」